

「技」を媒体とした学びに熱中する子どもの育成プログラム：  
地域連携型体験学習の導入とその効果の評価方法開発による教員養成改革

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松永, 泰弘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7148">http://hdl.handle.net/10297/7148</a>

## 「技」を媒体とした学びに熱中する子どもの育成プログラム

### ー 地域連携型体験学習の導入とその効果の評価方法開発による教員養成改革 ー

プロジェクト代表者 松永泰弘

近年、学校現場を取り巻く問題が深刻化するなか、教員の質的向上を目的とする教育改革はわが国の緊急課題となり、なかでも、子どもへの基礎的・基本的な知識と技能の定着には、魅力的で斬新な教材開発力と十分な授業力を身につける教育プログラムが必要とされています。教育改革の基本姿勢として、本学と学校、地域、家庭とが連携し、教員養成学部の特性を活かした社会的貢献と調査研究結果を還元することが必要かつ不可欠です。

平成 17 年に立ち上げた『「技」を媒体とした学びに熱中する子どもの育成プログラムー地域連携型体験学習の導入とその効果の評価方法開発による教員養成改革ー』は、教育学部長をリーダーに関係教科の教員有志で結成された「技プロジェクトチーム」（略称：技プロ）が中心となり、平成 18 年度から本格的に動き出し、2 年目を迎えました。

今回の競争的配分経費Ⅱによるプログラムは、1 年以上の実績を生かした実践と検討、試行的評価のための事業です。

本事業では、子どもたちの学習意欲や生きる力を伸ばす力量ある教員養成をめざして、地域の学校や公共施設等と連携しつつ、横断的・循環的視点を考慮した教材や身体を使った技の発見・習得を軸とするプログラムの導入、およびそれらの効果の評価方法開発に向けた調査研究を行います。その中で、子どもたちの学びへの熱中を誘い、勇気や忍耐力、感性を高める力量を備えた教員養成プログラムを開発することを目的とします。

そのための目標として、実践的・体験的な活動による学習成果を適正に評価するための指標を提示しつつ、教員養成課程の学生が主体的に以下の内容で取り組みます。

- ① 教科を横断し成果を循環させる視点を考慮し、子どもたちの感興をそそる「技」を活かした教材開発力を身につける。
- ② 「技」の魅力を十分に伝えられる授業力を身につける。
- ③ ①、②の力を鍛錬するために、地域との協同による参加型体験学習の企画・運営を実施する。

本報告書では、技術教育講座、音楽教育講座、美術教育講座、各 2 グループ、計 6 グループが参加し、「技を媒介とした学びに熱中する子どもの育成プログラム」のテーマで実践されてきた内容を報告します。また、本プロジェクトの内容は 2007. 3. 8 サルナートホールで開催された静岡大学平成 18 年度第 9 回地域連携（共同研究）希望テーマ説明会においても報告されました（静岡新聞 2007. 3. 9 掲載）。

今後、前回と今回の報告書を基に、実践内容の試行的評価・検討を行いながら、プロジェク

